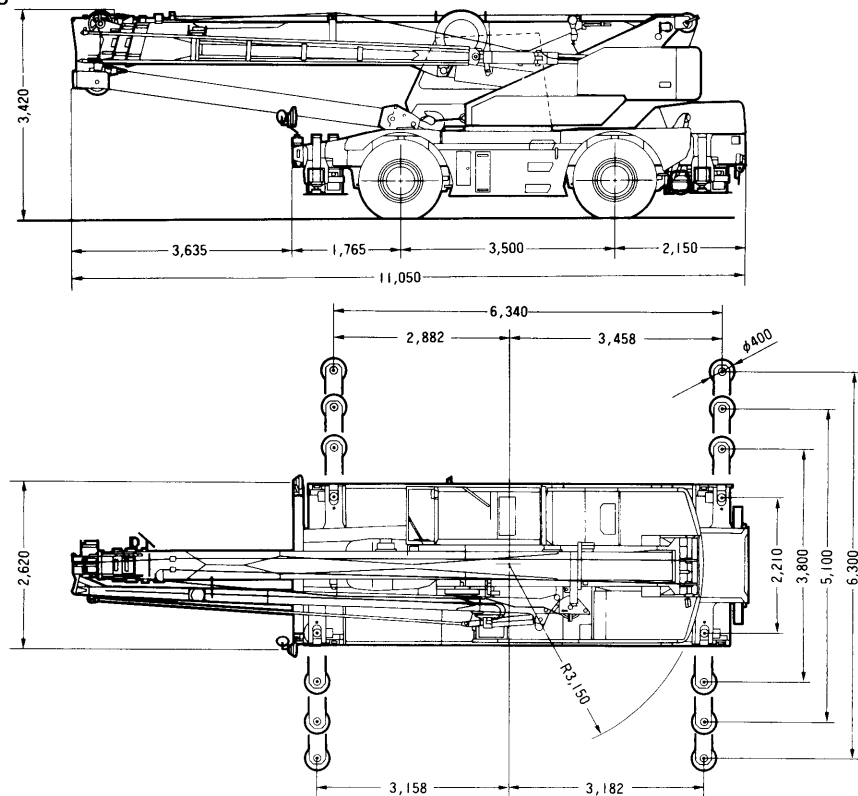


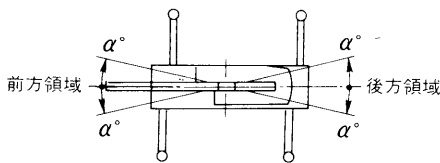
■全体図(単位mm) ($\frac{1}{125}$)



【定格総荷重表注意事項】

■アウトリガ使用時

- 1) 定格総荷重は水平堅土上において機体を水平に設置した状態での保証できる最大荷重を示しておりフックその他のつり具等の重量を含んだ値です。
□部分は機械の強度によって定められ、他は機体の安定度によって定められています。
- 2) 作業半径はブームのたわみを含んだ実際の値にもとずいていますので必ず作業半径を基準として作業を行ってください。
- 3) ジブの作業半径は30.5mブームにジブを装着して作業を行った値を示しその他のブーム長さでのジブ作業はブーム角度だけを基準として行ってください。
- 4) アウトリガ張出状態によって側方域でのつり上性能は異なります。従って各々の張出状態における定格総荷重表で作業を行ってください。前方、後方域でのつり上性能はアウトリガ最大張出の定格総荷重表で作業を行ってください。
- 5) ルースタシーブの定格総荷重は、ブームの定格総荷重より25トンフックの重量(230kg)を差引いた値と等しく、かつ限度を3,500kgとします。
- 6) ブームの長さが規定の長さをこえる場合には規定の長さか、一段上のブーム長さかのいずれか、小さい方の定格総荷重で作業を行ってください。
- 7) ジブを装着したままでブーム作業を行う場合は定格総荷重より、つり具等の重量の他に1,400kgを差し引いてください。なおこの場合、ルースタシーブは使用しないでください。
- 8) 各々の作業状態におけるブーム危険角度は表のとおりです。ブームを危険角度以下にしますと無負荷でも転倒しますので充分注意してください。
- 9) 各ブーム長さに対する標準フック巻掛本数は、表のとおりです。ただし標準フック以外の掛数で使用する場合は、ワイヤーロープ1本当たり3,200kgを限度としてください。
- 10) ジブ使用時、ジブオフセット角度が規定の角度をこえる場合には規定の角度より一段大きいジブオフセット角度の定格総荷重で作業を行ってください。
- 11) 自由降下作業は原則としてフックのみを降下するときに使用しますが、やむをえずつり荷を自由降下する場合には定格総荷重の20%までを限度とし急激なブレーキ操作は絶対にさけてください。
- 12) アウトリガ最縮小張出状態での定格総荷重表は、H型アウトリガ付機体のみ適用します。
- 13) 定格総荷重表は風による影響を含んでいません。瞬間風速が10m/secをこえる場合は作業を中止してください。
- 14) 定格総荷重をこえる作業を行った場合、及び正しい使い方を行わなかった場合は転倒又は破損します。この場合本機の保証はいたしません。



アウトリガ張出状態	中間張出(5.1m)	中間張出(3.8m)	最縮小張出
領域 α°	35	20	3